

なつやすみにおすすめのほん

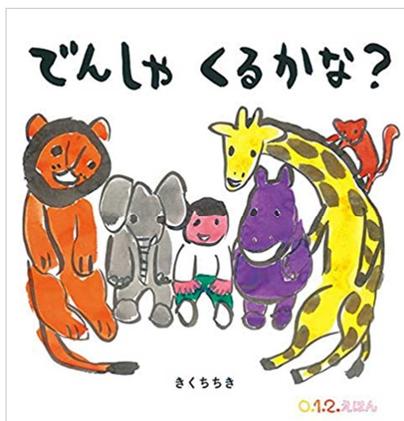
2021年7月和光市図書館



わ こうしとしょうかん しょくいん えら なつやす よ ほん しょうかい
和光市図書館の職員が選んだ「夏休みに読んでほしい本」を紹介します。

ようじ しょうがく ねんせい ねんせい ねんせい
幼児むけ、小学1、2年生むけ、3、4年生むけ、5、6年生むけです。ぜひよんでみてください。

ようじ 幼児むけ



『でんしゃ くるかな?』

きくち ちき / 作 福音館書店 2018年発行 分類 E 稚

みんなで でんしゃを まっています。

「くるかな? くるかな? きたー!」

でも なかなか でんしゃには のりません。でんしゃって のらなく
ても みているだけで たのしいですね。

どうぶつたちと いっしょに でんしゃを まつ きもちで よむと
たのしくて わくわく します。

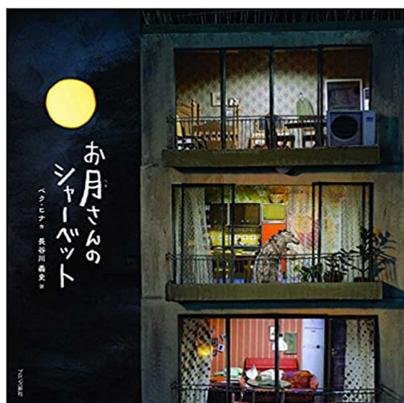


『めっきらもっきらどおんどん』

はせがわ せつこ さく え
長谷川 摂子 / 作 ぶりや なな / 画
福音館書店 1990年発行 分類 E 小

ちんぷく まんぷく あっぺらこの きんぴらこ じょんがら
ぴこたこ めっきらもっきら どおんどん

かたが めちゃくちゃな うたを うたうと きみょうな こえが
きこえてきました。その こえを たどって いくと おばけが
さんになん やってきて……。このほんを よみおわったら あなたも
うたいたく なることでしょう。めっきらもっきら どおんどん!



『お月さんのシャーベット』

つき
ペク・ヒナ / 作 長谷川 義史 / 訳
プロンズ新社 2021年発行 分類 E 小

あつい あつい なつの よるのこと。おつきさんが とけて
しずくを たらして いたので おばあちゃんは その しずくで
シャーベットをつかった。それは それは つめたくって
あまくって あついのも すーっと とんでいった。

いっかい よんだら にかいめは それぞれのおへやの ようすも
みてみると たのしいですよ。





『おすしやさんにいらっしやい!』

おかだ だいすけ / 文 遠藤 宏 / 写真

いわさきしょてん ねんはっこう ぶんるい
岩崎書店 2021年発行 分類 Eミド

「生きものが食べものになるまで」という副タイトルがつけられているこの本は、海で生きていところをつり上げられた魚が、おすしやさんにはこばれて、おすしになるまでを、写真でしようかいしています。

おすしやさんにやって来た子供たちに、じっくりかんさつされる魚たち。キンメダイ、アナゴ、イカの体のしくみや、板前さんがそれぞれの魚をさばっていく様子などを、楽しみながら知ることができます。読んだ後は、きっとおすしが食べたくなる! そんな絵本です。



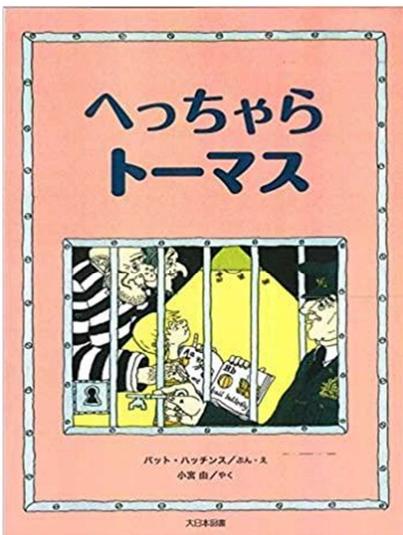
『つくしちゃんとおねえちゃん』

いとう みく / 作 丹地 陽子 / 絵

ふくいんかんしょてん ねんはっこう ぶんるい
福音館書店 2021年発行 分類 913

二年生のつくしは、のんびりしていてマイペースな女の子。二つ年上のおねえちゃんと二人きょうだいです。四年生のかえでおねえちゃんは、すっごくゆうとうせいでがんばりやなので、じまんのおねえちゃんでもあるけど、時にはつくしだってみとめてもらいたいのに・・・とってしまう(きょうだい、あるあるですよね!)

でも実は、おねえちゃんにだって、にがてなことはあるし、弱さだってあることも知っているつくし。けんかして、たすけあって、わらいあう、姉妹のにちじょうをえがいた五つのお話です。



『へっちゃんらトーマス』

パット・ハッチンス / 文 小宮 由 / やく

だいにっほんとしょ ねんはっこう ぶんるい
大日本図書 2016年発行 分類 933II

あるところに、トーマス・ミードという男の子がいました。トーマスは字をおぼえようとしません。「字をおぼえなさい」といわれると、「かんけないね」といいかえます。だからもんだいばかりおこしますが、へっちゃんらです。ところがある日、大じけんをおこしてしまい、ろうやに入れられてしまいますが・・・さて、トーマスはその後、どうなったのでしょうか?

トーマスの「かんけないね」が、つうかいなお話です。





『ねこまつりのしょうたいじょう』

いとう みく/作 すずき まもる/絵 きん ほししゃ

2016年発行 分類 913

夏休みの終わりの三日前、3年生の耕太は、ソーダアイスの棒に「アタリ」と書いてあるのを見つけました。さらによく見ると小さな字で「ネコソク ネコマツリ ゴショウタイ」と書いてあります。会場に行くとき、なんと二百匹のねこたちが待っていました。「まつりをおこなうには、三つの供物をそろえねばなりません」と代表のねこは耕太に言いました。

耕太はねこたちに協力することにしましたが、たくさんのこっている耕太の宿題が終わるのかどうかも心配になります。

ぶじに、ねこまつりをおこなうことはできるのでしょうか？



『しずく的首飾り』

ジョン・エイキン/作 猪熊 葉子/訳 いわなみしよてん 岩波書店

2019年発行 分類 933I

ローラは赤ちゃんの時に北風から「しずく的首飾り」をもらいました。首飾りにはきらきら光る雨つぶが三つついていて、毎年、誕生日がくるたびに首飾りの雨つぶが一つずつ増えると、ローラは深い川や海でも泳げるようになったり、雨を止めることができたり、不思議な力を使えるようになるのです。ある日、ローラは学校で首飾りをだれかにとられてしまいました。ローラは仲間たちと首飾りを探しにでかけました。ローラの誕生日はもうすぐです…。

1冊で、8つの不思議で楽しいお話を読むことができます。



『虫のしわざ探偵団』

新開 孝/写真・文 少年写真新聞社

2018年発行 分類 486

公園や神社などで、「これは何だろう？」と思う変なものに出合ったことはありませんか？

たとえば、穴がたくさん開いている葉っぱや、いろいろな場所にあるどろ団子など、その多くは、虫が残した「しわざ」で、フンや食べあと、巣（すみか）などと関係があります。

どんな虫がどんな風に「しわざ」を残したのでしょうか？探偵になったつもりでさぐってみましょう。



『もしもトイレがなかったら』

かとう あつし ちよ しょうねんしゃしんしんぶんしゃ ねんはっこう
加藤 篤 / 著 少年写真新聞社 2020年発行
ぶんるい ぶんるい
分類 518

まいにちだれ かなら つか
毎日誰もが必ず使っているトイレ。あなたはどれくらい「トイレ」
のことを知っていますか？うちの正体から、トイレの仕組み、
にほん せかい せかい しょうたい しよく
日本や世界のトイレの歴史、トイレの進化…など、トイレに関する
さまざま ことを知ることができます。

あなたはトイレがない世界を想像できますか？実は、世界中には
トイレが使えない人が約20億人もいます。それに誰もが、災害等
きゅう つか じょうきょう かのうせい とき
急にトイレが使えない状況になる可能性があります。そんな時に
そな じゅんび
備えてどんな準備をしておけばよいのでしょうか。

しんがた かんせんしょう かくだい せいけつ たも たいせつ
新型コロナウイルス感染症の拡大で、清潔に保つことの大切さが
みにしみる今こそ、読んでおきたい一冊です。



『ぼくらしく、おどる ～義足ダンサー大前光市、夢への挑戦～』

おおまえ こういち ちよ いまい え がっけん ねんはっこう ぶんるい
大前 光市 / 著 今井 ヨージ / 絵 学研プラス
2020年発行 分類 769

おおまえこういち ねん へいかいしき
大前光市さんは、2016年のリオパラリンピックの閉会式のほか、
せかい ぶたい かつ ぎそく おおまえ
世界の舞台上で活やくする義足をつけたプロダンサーです。大前さん
は、ダンスの作品ごとにその内容にぴったりと思える義足をつけて
います。なが ぎそく みじか ぎそく とき ひか ぎそく
長い義足や短い義足、時にはキラキラ光る義足をつけ、「ぼ
くらしく、おどる」ことを大切にしています。

さいしょ
でも最初から「ぼくらしく」いられたわけではありません。子ども
の頃はいじめられっ子でしたし、24歳で事故で足を失ったその日
は、あこがれのプロダンサーになるための最終しんさの前日でした。
おおまえ こんなん の こ えが
大前さんが困難をどう乗り越え、「ぼくらしく」おどれるようにな
ったのかが、この本には描かれています。

とても読みやすいので、読書が苦手な人も読んでみてください。





とくじろう
『徳治郎とボク』

はながた ちよ りろんしゃ ねんはっこう ぶんるい
花形 みつる／著 理論社 2019年発行 分類 913

とくじろう 徳治郎というのは、ボクのおじいちゃんの名前だ。『へそ曲がり』
で『怒りん坊』で『頑固者』のおじいちゃんは、毎日2回山の上の畑
に行くのが日課だ。夏休みに、ボクはそれについて行って、おじいち
やんの「ちっせえとき」の話^{はなし}を聞くのが好きだった。

ボクが4歳から6年生になるまでの、おじいちゃんとお話^{はなし}
です。習い事や部活が忙しくなったり、友達と遊ぶのが楽しくて、
おじいちゃんやおばあちゃんに会いに行くことが少なくなっていま
せんか？いっしょに過ごせる時間は永遠ではありません。この本を
よんだら、この夏、おじいちゃんやおばあちゃんに会いに行きたくな
るかもしれません。



ちい だいてんさい
(ロアルド・ダールコレクション 16) 『マチルダは小さな大天才』

ちよ え ねんはっこう ぶんるい
ロアルド・ダール／著 ケンティン・ブレイク／絵
みやした みねお やく ひょうろんしゃ ねんはっこう ぶんるい
宮下 嶺夫／訳 評論社 2005年発行 分類 938ダ

しゅじんこう 主人公のマチルダは天才少女^{てんさいしょうじょ}。3歳になる前に字が読めるよう
になり、4歳で有名な文学作品も読みこなしてしまいます。でも両親
はそんなマチルダに興味^{きょうみ}がなく、「うそつき」「物知らず」「チビ」「ば
か」と、どなちらしてばかりです。さらに学校に入ったマチルダを待
っていたのは、子どもが大嫌いで暴力的な校長先生^{がっこう せいせい}でした。

「子どもだから」「女の子だから」「男の子だから」という理由^{りゆう}
でひどいあつかいをする大人^{おとな}たちを、マチルダがこてんぱんにやっつ
ける物語^{ものがたり}です。でも登場^{とうじょう}するのはひどい大人ばかりではありませ
ん。マチルダのクラス担任^{たんじん}で、マチルダのよき理解者^{りかいしゃ}のミス・ハニー
の存在^{そんざい}は、マチルダの大きな助け^{おお たす}になります。

とにかくおもしろくて痛快^{つうかい}なお話^{はなし}です。『マチルダ』という映画^{えいが}
にもなっています。



よ ほん かしだしちゅう よやく
読みたい本^{よみたいほん}が貸出中^{かだしちゅう}のときは予約^{よやく}できます。

としょかん ひと き
くわしくは、図書館^{としょかん}のカウンター^{ひと}の人に聞いてください。

